

OCU指標を用いた多様な学修成果の総合化と その活用スキーム構築による卒業時の学修成果の質保証と向上

大阪市立大学

飯吉弘子・西垣順子・佐々木洋子・谷芳恵・外尾安由子

1 本学の課題と取組の目的

大阪市立大学では、「OCU指標を用いた多様な学修成果の総合化とその活用スキーム構築による卒業時の学修成果の質保証と向上」に取り組んできた。8学部を擁する総合大学である本学では、相対的に学部間の独立性が高く各学位プログラムでの取組が個別の属性を持ち多様なため、本学が全学的に掲げている教育目標や学士課程全体を通じた学修成果に対して、各科目がそれぞれどの程度対応づいており自分がどの程度学修できているかが科目を履修した学生にわかりにくく、様々に行われている教育上の取組を全学的に把握しにくいというカリキュラム上の課題があった。また、既存の調査結果（2014年度実施）からも、学生の学修姿勢に幅があることが明らかになっており、自律的能動的学修者の育成を一層推進していく必要もある。それらの解決に向け、多様な学生すべてに共通の学修成果と、各学位プログラム特有の学修成果の両方についての質的・量的な直接評価を統合する指標の開発を行い（「OCU指標」開発）、自律的能動的学修支援とそれを促す教育支援を併せて活用することで、全学的な学修成果の把握および学修成果の向上と入学から卒業時までの質保証に取り組んできた。

2 取組概要

本事業の実施体制として、学長のリーダーシップのもと、ステアリング委員会、AP事業プロジェクト推進委員会と4つのチーム（OCU指標チーム、学修推進チーム、教学IRチーム、全学FD・SDチーム）からなる、全学的な教育改革とが連動できる学内体制を構築し、以下の取組を推進してきた。①本学経済学部で活用実績のあったPE（Practical Economist）指標をもとに、全学DPに基づいた「OCU指標」を考案・開発し、②2018年度に経済学部で先行導入、2019年度には全学部（除、医学部医学科）で導入し、学位プログラム毎のカリキュラム点検にも利用し始める等、内部質保証に活用している。また、③学生の自律的能動的学修の促進支援および能動的学修促進型の教育支援を目的とした「学修支援推進室（OCUラーニングセンター）」を開設し、SA/TA/PD/教員/職員等の異なる立場のスタッフが、既存の学内支援組織とも連携・協働しつつ、学生の特性やニーズに基づいた、学生の主体性を伸ばし学修成果の質向上を促す様々な取組を実施している（学修相談（一般学修・英語・数学）、自主学修教材「学びのTips」の開発、学修・教育支援の各種イベント等）。学修支援推進室では、活動のプロセス自体が、活動に関わるすべてのスタッフ自身の学びと成長をも促すことを目指して構築している。さらに④学修・教育状況の点検評価のための学生調査および教員調査の量的・質的調査を多様に実施し、教育や本事業の改善に役立ててきた。⑤以上のOCU指標開発とその総合活用スキーム全体の取組や課題と成果を学外で情報共有し議論する場として、組織的で多様なFD・SD企画も実施している。

3 成果

多様性と最低要件両方を可視化できるOCU指標の開発とその活用スキームの構築を、上記2のように計画通り進めた。とくに、1) 学びの見える化・説明ツールでもあるOCU指標を用いた学修相談体制の全学的導入、2)学修支援推進室をハブとした自律的能動的学修者の育成推進、3)学生の自律的能動的学修活動を支援する様々な取組みや教材開発、4)OCU指標と多様な間接評価指標を活用して教育の点検・評価・改善を行う内部質保証システム構築等、全体を通じて、学生の学修成果と教育の質向上スキームを構築・改善でき、在学中と卒業時の学修成果の質保証に向けた取組を行なうことができた。